



NIE 教育に新聞を

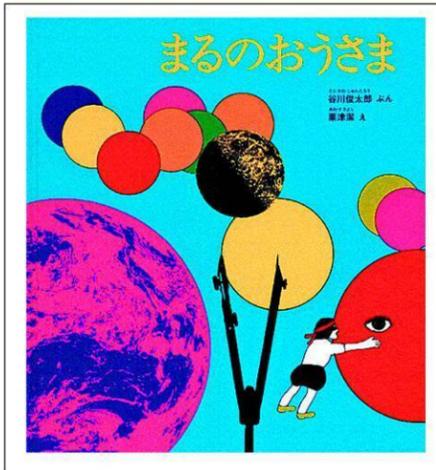
4

小学1・2年生向け

### まるのおうさま

谷川俊太郎ぶん 粟津潔え

お皿や楽器のシンバルなど、いろいろな丸いものが次々にあらわれて、自分こそが「まるのおうさま」だと競うように名乗り出ます。ところが皿は落ちて割れ、シンバルはタイヤにひかれてペしゃんこに。そこへ、「ぼくがいなけりゃしゃりんはまわらぬ」とボールベアリングが声をあげます。さらに、円を描くコンパスや、真珠、オレンジ、レコード…。そして空に大きな輪を描いて飛ぶとんびまで登場しますが、どこからか不思議な声が聞こえてきて…。ユニークなイラストとテンポの良い言葉の組み合わせが印象的な絵本です。読んだあとには、身のまわりの「丸」を探したり、描いたりして楽しんでみたいかなることでしょう。



(福音館書店 1100円)

小学3・4年生向け

### 大接近！スポーツものづくり6 金メダルの工場

高山リョウ構成・文 添田康平写真

オリンピックで活躍した選手に贈られるメダル。「東京2020オリンピック・パラリンピック」の際には、廃棄された携帯電話などに使われている貴重な金属から、メダルを作るプロジェクトが行われました。本書は、東京五輪のメダルがどのように作られたかを、豊富な写真とともに紹介しています。まずリサイクル工場で携帯電話を砕き、金・銀・銅などの金属を取り出します。次に造幣局で純銀の板を丸くくり抜き、高温で熱して柔らかくし、金型で圧力をかけるなど、さまざまな工程を経てメダルが完成します。金メダルと銀メダルの製造方法の違いや、メダルが化学反応で色が変化する様子など読みどころも多く、日本のものづくりの技術を実感できる一冊です。



(岩崎書店 2640円)

## 図書館へ



### 3.14にちなみ「丸」集合

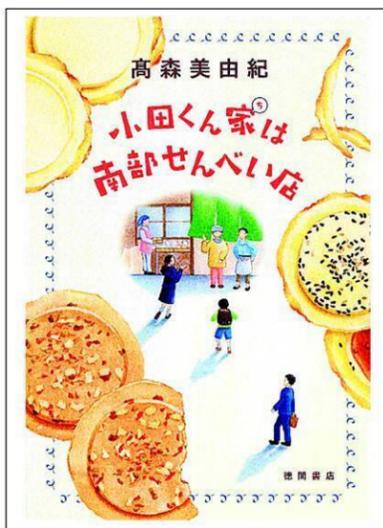
3月14日は、円周率3.14にちなみ「数学の日」です。そこで今回は丸い形を競い合うお話や、金メダルづくりの本、南部せんべい店が舞台の小説、円周率の謎に挑んだ関孝和の伝記など、さまざまな丸い形が登場する本を紹介し、毎月第2週に掲載します。

小学5・6年生向け

### 小田くん家は南部せんべい店

高森美由紀著

小学校4年生の小田弘毅の家は、祖父を中心に家族で営む、青森県の南部せんべい店です。ある日先生から、「街の文化を知ろう」という課外授業で弘毅の家の店を見学する、と報告がありました。しかし、南部せんべいに興味のないクラスメートたちからかわれ、弘毅はけんかをしてしまいます。その日の帰り道、学校を長く休んでいる松田潤に偶然出会った弘毅は、課外授業のことを話します。すると見学当日、潤はみんなより先に店を訪れ、せんべい作りの様子を誰よりも興味深そうにみつめていました。その後、弘毅と潤はせんべい作りを通して仲良くなっていきます。しかし、2人は家族のことでそれぞれ悩みを抱えています。



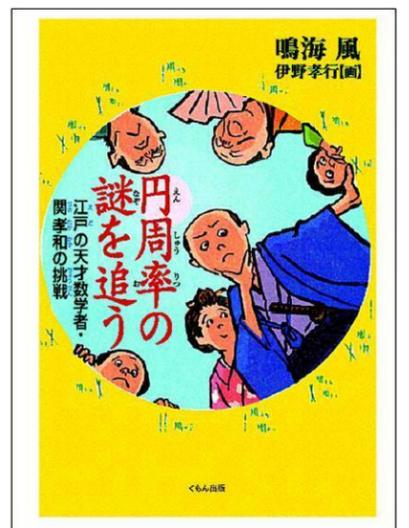
(徳間書店 1980円)

中学生向け

### 円周率の謎を追う 江戸の天才数学者・関孝和の挑戦

鳴海風作 伊野孝行画

江戸の武士の家に生まれた15歳の孝和は、儒学（中国の孔子の教え）や剣術よりも、数学が大好きでした。数学の塾に通い、先生の娘・香奈とともに難解な書物にも果敢に挑み、日々研鑽を積んでいます。ある日、孝和と香奈は、算額（数学の問題と解答を書いた絵馬）が奉納されている目黒不動を訪れます。そこで大坂で数学を学ぶ沢口一之と出会い、彼から「ほんとうの円周率は三一六（3.16）より小さい」と聞かされ、孝和は衝撃を受けます。当時の江戸では円周率は3.16とされていたからです。円周率の謎を解き明かしたいと、強い想いを抱く孝和ですが…。のちに甲府藩士としても活躍した天才数学者・関孝和を描いた伝記小説です。



(くもん出版 1650円)